

産科医療補償制度 第 96 回原因分析委員会 議事要旨

日時：2021年1月18日(月) 16時00分～18時00分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者(委員)：石川浩史、茨聡、上塘正人、川田綾子、楠田聡、佐藤昌司、
下屋浩一郎、鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、高田昌代、
豊田郁子、前田津紀夫、馬目裕子、村越毅(敬称略)

議事概要：

1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況等について

○2020年12月末時点で累計2,792件の原因分析報告書が承認されたことが報告された。2020年度上期はコロナ禍の影響で事務局の半分が在宅勤務となったこと等から報告書の作成・送付に遅れが生じていたが、10月より出勤態勢を通常出勤に戻して立て直しを図ったこと、また、新型コロナ感染拡大の次の波に備え、在宅勤務でも生産性が大きく落ちることのないように、ITインフラの整備等の準備を進めてきたため、2021年1月の二度目の緊急事態宣言の発令を受け事務局は再び50%在宅勤務に移行したが、円滑に業務を行えていることが報告された。

○同一分娩機関での複数事案目の原因分析の結果、同じ診療行為等において医学的に厳しい評価が繰り返された場合に一層の改善を要請する「別紙(要望書)」対応について、2020年12月末時点での実施件数は102件であること、改善要望を行った項目については、総数131件のうち「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が43件と一番多く、「診療録の記載」「子宮収縮薬の投与方法」「分娩監視方法」の順となっていることが報告された。施設区分毎で見ると、「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」については、「診療所」「周産期指定のない病院」で多く改善要望されており、また、「診療録の記録」については、いずれの施設区分においても、改善要望の上位に入っていることが報告された。

2) 原因分析報告書全文版(マスキング版)の開示および原因分析のデータ等を活用した研究等の状況について

○原因分析報告書全文版(マスキング版)については、前回の原因分析委員会以降、新たな2件の利用申請があり、開示方法を変更した2015年11月以降2020年12月末までに11件の利用申請で延べ1,607事例の報告書を開示したこと等が報告された。

3) 原因分析報告書要約版の公表について

○過去に不同意の意思表示を受け未公表としている要約版については、該当の保護者および分娩機関等に対し、要約版公表の意義等を説明したうえで所定の期日に要約版を公表する旨の案内文書を送付し、期日までに特段申し出等がない場合は、理解が得られたものとして「要約版」を公表する取組みを2020年11月より開始したことが報告された。

4) 原因分析報告書改定の振り返り

○2020年より実施した原因分析報告書の二つの改定(「事例の概要」から「事例の経過」への変更、「医学的評価に用いる表現」の改定)に関し、報告書の作成に携わる原因分析部会の委員に聴取した意見が報告された。「事例の経過」への変更、「医学的評価に用いる表現」の改定ともに、「分かり易くなった」「報告書の作成・審議がスムーズになった」等肯定的な意見が大半であった。

○原因分析委員会として、当面、この改定内容で進めていくことが確認された。また、今後、アンケート等により報告書を受け取った側(保護者・分娩機関)の意見も聞いて欲しいとの意見が出された。

5) 部会審議における確認事項等

○原因分析報告書上の原因の記載や医学的評価のあり方等に関して、原因分析の質および均質性を維持するために、原因分析委員会としての見解を確認・整理した方がよいと提起された事項について、原因分析委員会としての考え方が整理された。

6) その他

○2022年1月以降の分娩より適用される産科医療補償制度の改定の概要が報告された。

以上